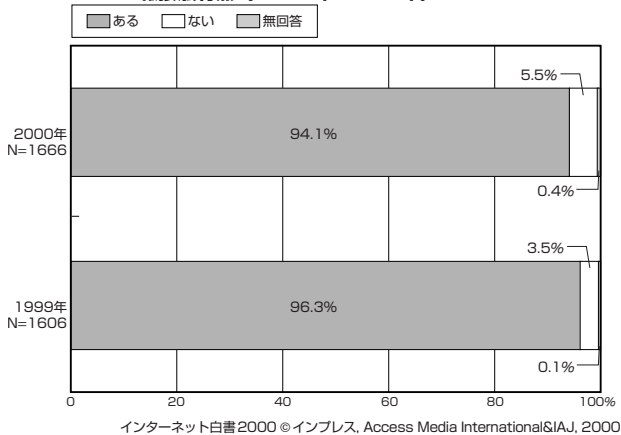
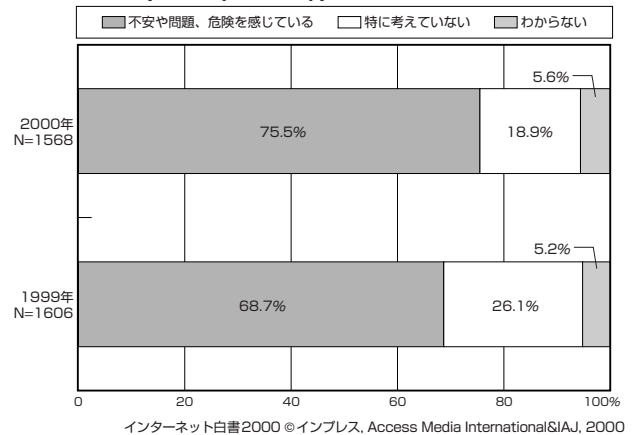


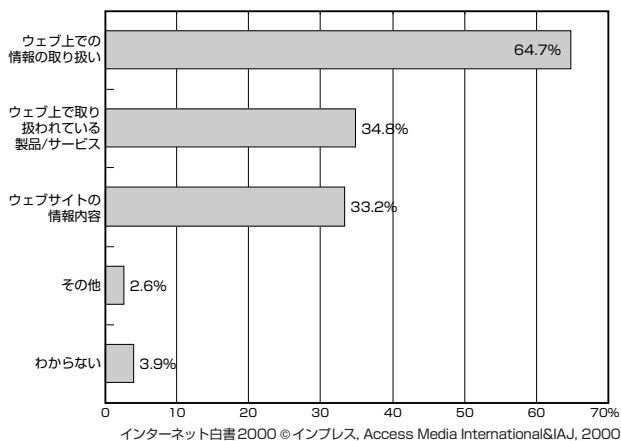
資料 1-2-25 インターネットを利用した犯罪やセキュリティに関する情報接触有無 (1999年-2000年)



資料 1-2-26 インターネット利用の際のセキュリティに対する考え方 (1999年-2000年)



資料 1-2-27 不安や問題、危険を感じる分野 N=1184



解説

最近では、インターネットを利用した犯罪のニュースがあとを絶たない。本調査では昨年からインターネットのセキュリティに関する意識を個人利用者に聞いている。

昨年同様、インターネットを利用した犯罪やセキュリティに関する情報接触経験はインターネット利用者の9割以上を占め、今では避けては通れぬ話題ともいえる。そのため、情報接触率が大幅に増加しているわけでもないに関わらず、インターネット利用の際のセキュリティに対する考え方としては「不安や問題、危険を感じる」率が増加している(資料1-2-25~26)。年代別で特徴的なのは、若年層の特に19歳未満で「特に考えていない」率が高く、不安感が薄いことである。また、性別では女性の方が男性に比べやや不安感が強い傾向がみられる。

昨年同様、最も不安や危険を感じる分野は「ウェブ上での情

報の取り扱い」(64.7%)であり、昨年の75.2%からは減少したものの、インターネットへの個人情報の流出や濫用を懸念する傾向が最も強いことには変わりはない(資料1-2-27)。

一方、「ウェブ上で取り扱われている製品/サービス」や「ウェブサイトの情報内容」といった、直接モノや情報そのものに関する懸念もやや増加する傾向がみられる。インターネットのエントリー層が増加しているにも関わらず全体に高い数字を示していることから、インターネット利用者の間にインターネット上には薬物、凶器の流通など犯罪の原因となりうるサイトが存在するという情報が一般化してきていることと、それらの情報サイトへの警戒感が徐々に強まってきているとみてよいだろう。

(矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)